窓

京都新聞　令和２年（2020年）８月19日(水)

人種と生きる権利 考えた

伏見区・萩　結梨（大学生・18）

米国で黒人男性が、白人の警察官に首を圧迫され死亡してしまった事件を受けて、黒人差別についての抗議がたくさん行われている。また、ソーシャルメディアでは、「ブラック・ライブズ・マター（黒人の命大事だ）」という言葉が広まっている。

ブラック・ライブズ・マターは、命にだけ焦点を当てた言葉ではなく、黒人たちが日々、ハラスメントや暴力、警察からの取り締まりに脅かされているため、黒人たちにも生きる権利、普通の生活を送る権利があるという意味が込められている。これは、黒人に限らず、人間みんなに言えることであると思う。

日本では、外国人が身近にいないため、「自分たちと違う人が来た」と思い、のけ者にしている人が少ないとは言えないのが現状である。生まれた国が違うから、肌の色が違うから、瞳の色が違うからと言って同じ人間なんだから、生きる権利を奪われるなんてことあっていいものなのか。このことを改めて考えさせられた。また、この事件には歴史的背景がとても関係しており、歴史を学ぶことの大切さを感じた。

※無断転載不可